

サークル構成員の組織コミットメント～個人特性と集団特性に着目して～

Commitments of Circles' members:

Focused on Characteristics of members and of organizations

1K08B215-5 谷 亀 文 哉

指導教員 主査 作野 誠一 先生 副査 木村 和彦 先生

【緒言】

サークル集団とは個人の自由意思に従い参加・脱退が自由な集団である。先行研究によってサークル集団に所属することによって、集団規範を守ることや、周囲の人たちへの礼儀、人間関係の形成または人間関係の問題への対応能力などの獲得が期待される。その一方で場所の確保や活動内容は構成員の裁量に任されており、自主的に活動を続けていけない限り、サークル集団は存在することができなくなる。サークル集団は、社会に出る準備段階の大学生にとって身近な集団であるが、サークル集団を対象にした過去の研究はあまりにも少ない。大学生の個人と組織との関わりについて研究する意義があるといえよう。

本研究では、個人の特定の組織に対する同一視や関与の程度(Mowday et al.1979)と定義されているコミットメントに注目した。サークル構成員の所属組織へのコミットメントについて、集団属性や個人属性などの変数を用いて比較・分析を行う。過去のコミットメント研究の事例と比較し、属性の違いによるサークル組織のコミットメントを明らかにすることを目的とする。

【研究方法】

早稲田大学のサークル集団に所属している学生を対象に計 164 人に対して調査を実施した。組織コミットメントの測定には Allen&Meyer(1990)の 3 次元組織コミットメントを用いた。情緒的コミットメント、継続的コミットメント、規範的コミットメント、それぞれ 6 つの計 18 項目の内、サークル集団には適さないと思われる規範的コミットメント 1 つを除く計 17 項目を使用し、7 段階尺度で回答を求めた。組織コミットメントの他に、学部、学年、性別、有能感、役職経験の有無、必要移動時間を個人属性としてたずねた。集団属性として、集団フォーマル性尺度(新井,2004)、構成員の男女比、サークルの飲み会頻度を調査した。構成員の男女比、サークルの飲み会の頻度に関して

は、各サークルの代表者 1 名に別紙アンケートへの記入を求めた。

【結果】

今回の調査では、学部、学年、性別、有能感、役職経験の有無、練習参加の頻度の項目でコミットメントに違いが生じた。その一方、必要移動時間でコミットメントの違いは生じなかった。また、集団属性においては、集団フォーマル性尺度、構成員の男女比、サークルの飲み会頻度のいずれの変数でも組織コミットメントに違いは生じなかった。

【まとめ】

サークル構成員の組織コミットメントは参加、脱退が自由にできるというサークル集団の特徴の影響を強く受けていることがわかった。活動参加にかかる移動時間によって組織コミットメントに有意差は生じなかったことは、サークルの特徴である自由参加を象徴していると言えよう。

その一方で、職場組織に通じるような組織コミットメントも存在した。キャリアの垂直的な発達(=サークル内での役職経験)は組織コミットメントが高くなることを確認できた。

また、性別の違いによって組織コミットメントに差がみられた一方で、女性比率が高いサークルでは男性比率が高いサークルと近い組織コミットメントであったため、性別で組織コミットメントに差が出たというよりはマネージャーとプレイヤーといった役割によって組織コミットメントに違いが生じたものと考えられる。

本研究で設定した集団属性では組織コミットメントに差がなかったものの、サークル集団によって組織コミットメントには差が生じていた。つまり、集団単位でみた組織コミットメントに影響しているのは他の要因であるとも推測できる。今後の調査では、それぞれのサークルを特徴づけている要因を再検討する必要があると考えられる。